

統合報告書 2022

 住友金属鉱山



non-VOC インキを使用しています。



MINING THE FUTURE

At a Glance (2022年7月1日現在)

 <p>創業</p> <p>430年以上</p> <p>日本の上場企業で2番目に長い歴史</p>	 <p>売上高(連結)</p> <p>1兆2,591億円</p> <p>(2022年3月期)</p>	 <p>税引前利益(連結)</p> <p>3,574億円</p> <p>(2022年3月期)</p>
 <p>自己資本比率</p> <p>63.7%</p> <p>(2022年3月期)</p> <p>当社ビジネスの特性上、一時的なキャッシュ・アウトフローに耐える健全な財務体質として、自己資本比率50%以上の維持を目標としています。</p>	 <p>総資産</p> <p>2.3兆円</p> <p>(2022年3月期)</p>	 <p>配当性向^{※1}</p> <p>35.1%</p> <p>(2022年3月期)</p>
 <p>従業員数(連結)</p> <p>7,202名</p> <p>(2022年3月末時点)</p>	 <p>事業展開している国と地域数^{※2}</p> <p>15</p> <p style="text-align: right;">▶ P.2-3</p>	 <p>製造拠点^{※2}</p> <p>資源 7つの鉱山</p> <p>製錬 8カ所の製錬所</p> <p>材料 22の工場</p>
 <p>日本で唯一の操業金鉱山</p> <p>菱刈鉱山累計産金量</p> <p>260トンで日本一</p> <p>(2022年3月末時点)</p>	 <p>世界のClass1ニッケル権益生産量</p> <p>第5位</p> <p>※ 全体はニッケル権益生産量、当社グループはメタル生産量で算出</p>	 <p>二次電池向けニッケル系正極材</p> <p>世界シェアトップクラス</p>

※1 2021年度に計上したシエラゴルド銅鉱山に係る権益の全持分譲渡に伴う売却益には、2019年度の利益剰余金期首残高で調整した Sierra Gorda S.C.M.への貸付金等に対する貸倒引当金の累積的影響額(改訂 IAS 第28号「関連会社及び共同支配企業に対する投資」)の戻入りに相当する金額が含まれています。そのため、この会計基準の適用に起因し、本持分の譲渡に伴い発現した2021年度の業績への影響額については、配当額の算定において除いています。この会計処理の適用に起因する影響額を除いた基本的1株当たり当期利益は857.47円となります。

※2 2022年5月1日付で事業譲渡を受けた SMM Vietnam Co.,Ltd.を含む。

資源事業 ▶ P.48-52

300年以上受け継がれてきた鉱山開発・運営の経験を活かして、国内最大の金鉱山である菱刈鉱山をサステナビリティを重視した操業へ転換、新規鉱山開発プロジェクトの推進とともに、資源確保に向けて新たな優良鉱山の開発・運営に参画していきます。

主要製品等

金銀鉱、銅精鉱、銅、金、モリブデン



製錬事業 ▶ P.53-57

1590年の銅製錬事業開始から400年以上にわたって様々な金属素材を幅広い産業に安定的に供給し続けています。HPAL(高圧硫酸浸出)法による低品位ニッケル酸化鉱からのニッケル回収を世界で初めて商業ベースで成功させた高度な製錬技術を強みに事業を展開しています。

主要製品等

銅、金、銀、電気ニッケル、電気コバルト、フェロニッケル、パラジウム、化成品



材料事業 ▶ P.58-63

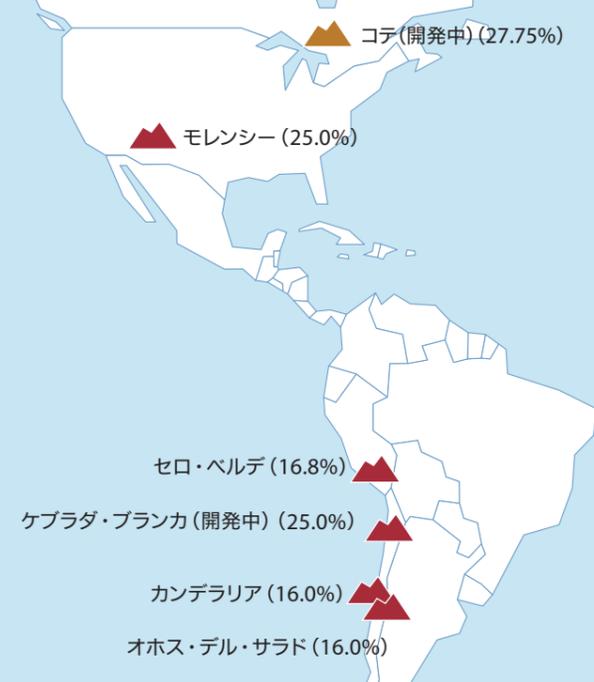
自動車やエネルギー、環境、通信情報、家電といった幅広い分野に利用される高機能材料の生産や、カーボンニュートラルに貢献する製品の開発・生産をしています。

主要製品等

電池材料、ペースト、粉体材料、結晶材料、薄膜材料、磁性材料、パッケージ材料、石油精製触媒、自動車触媒、軽量気泡コンクリート、潤滑剤



住友金属鉱山グループの事業展開 (2022年7月1日現在)



グループ会社数
 連結子会社 **53**社
 持分法適用会社 **13**社

● 連結子会社 ■ 持分法適用会社 * 環境報告の対象範囲

日本

住友金属鉱山株式会社*

資源事業

- 住鉱資源開発(株)

製錬事業

- (株) アシツ
- エム・エスジック(株)
- (株) 四阪製錬所*
- 住鉱物流(株)*
- (株) 日向製錬所*
- 三井住友金属鉱山伸銅(株)

材料事業

- (株) SMMプレジジョン*
- エヌ・イーケムキャット(株)
- 大口電子(株)*
- 大口マテリアル(株)*
- (株) グラノプト*
- (株) サイコックス*
- (株) 伸光製作所*
- 住鉱エナジーマテリアル(株)*
- 住鉱国富電子(株)*
- 住鉱潤滑剤(株)*
- 住鉱テック(株)*
- 住友金属鉱山シボレックス(株)*
- 新居浜電子(株)*
- 日本ケッチェン(株)*

その他

- 中ゲタハイム(株)*
- (株) ジェー・シー・オー*

アジア

住友金属鉱山株式会社*

- 住鉱技術サービス(株)
- 住鉱テクノリサーチ(株)*
- 住友金属鉱山エンジニアリング(株)*
- 日本照射サービス(株)*

アジア

資源事業

- Cordillera Exploration Company Inc.(フィリピン)

製錬事業

- 金隆銅業有限公司(中国)
- 住友金属鉱山管理(上海)有限公司(中国)
- 住友金属鉱山(香港)有限公司(中国)
- Coral Bay Nickel Corporation(フィリピン)*
- Nickel Asia Corporation(フィリピン)
- Taganito HPAL Nickel Corporation(フィリピン)*
- Sumitomo Metal Mining Philippine Holdings Corporation(フィリピン)

材料事業

- 東莞住鉱電子漿料有限公司(中国)*
- 上海住鉱電子漿料有限公司(中国)*
- 住鉱潤滑剤貿易(上海)有限公司(中国)
- 住鉱科技商貿(東莞)有限公司(中国)
- 格藍光学材料貿易(深圳)有限公司(中国)
- 台住電子材料股份有限公司(台湾)*
- 韓国住鉱株式会社(韓国)
- Sumiko Tec(Thailand) Co., Ltd.(タイ)
- SMM Vietnam Co.,Ltd.(ベトナム)

北米

資源事業

- SMMA Candelaria Inc.(米国)
- SMM Exploration Corporation(米国)
- Sumitomo Metal Mining America Inc.(米国)
- Sumitomo Metal Mining Arizona Inc.(米国)
- SMM Morenci Inc.(米国)
- SMM Gold Cote Inc.(カナダ)
- Sumitomo Metal Mining Canada Ltd.(カナダ)
- SMM Resources Inc.(カナダ)

その他地域

資源事業

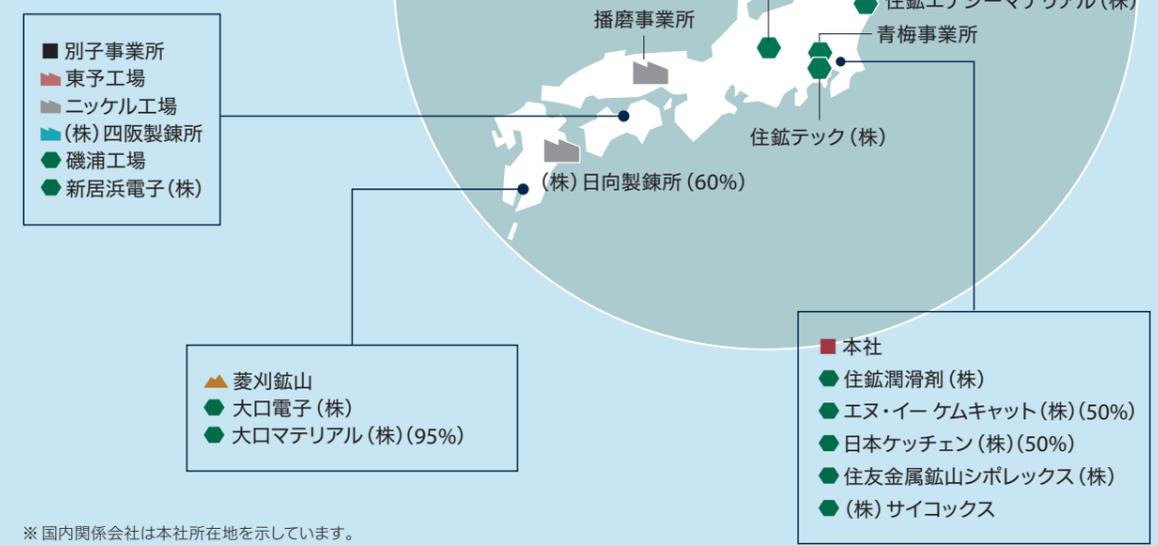
- Compania Contractual Minera Candelaria(チリ)
- Compania Contractual Minera Ojos del Salado(チリ)
- Sumitomo Metal Mining Chile LTDA.(チリ)
- SMMQB Holding SpA(チリ)
- SMM Quebrada Blanca SpA(チリ)
- Quebrada Blanca Holdings SpA(チリ)
- Sumitomo Metal Mining Peru S.A.(ペルー)
- Sociedad Minera Cerro Verde S.A.A.(ペルー)
- Sumitomo Metal Mining do Brasil LTDA.(ブラジル)
- Sumitomo Metal Mining Oceania Pty. Ltd.(オーストラリア)
- SMM Cerro Verde Netherlands B.V.(オランダ)
- SMMCV Holding B.V.(オランダ)
- SMM Holland B.V.(オランダ)

製錬事業

- FIGESBAL SA(ニュージーランド)

資源セグメント ▲ 銅 ▲ 金
 製錬セグメント ■ 銅 ■ ニッケル
 ■ その他
 材料セグメント ● 材料事業の主要拠点
 ■ その他の主要拠点 関係会社

() は出資比率。記載のないものは100%



※ 国内関係会社は本社所在地を示しています。

目次

- At a Glance
 - 住友金属鉱山グループの事業展開
- 住友金属鉱山グループのありたい姿
 - 6 住友の事業精神・経営理念
 - 7 長期ビジョン
 - 8 2030年のありたい姿
 - 10 2030年のありたい姿 策定アプローチ
 - 11 新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応
 - 12 トップメッセージ
- 住友金属鉱山グループの価値創造
 - 18 価値創造のあゆみ
 - 22 世界の非鉄金属産業と住友金属鉱山グループ
 - 26 価値創造プロセス
 - 28 価値創造プロセス(ビジネスモデル)の解説
 - 30 住友金属鉱山グループの資本
住友の事業精神が培った「7つの競争力」
 - 32 リスクと機会
 - 34 財務・非財務ハイライト
- 価値創造のための成長戦略
 - 38 過去の中期経営計画の振り返り
 - 40 18中計総括と2021年度の業績、2022年度計画
 - 42 2021年中期経営計画の概要
 - 46 財務戦略
 - 48 資源事業
 - 53 製錬事業
 - 58 材料事業
 - 64 研究開発
 - 68 **特集** 住友金属鉱山グループのDX
(デジタル・トランスフォーメーション)
- 社会との価値共創のために
 - 72 住友金属鉱山グループのサステナビリティ
マネジメントアプローチ
 - 74 2030年のありたい姿・重要課題・KPI
(指標と目標)
 - 76 2030年のありたい姿
(実績と2030年度までの達成基準・行動計画)
 - 90 ① 非鉄金属資源の有効活用
 - 91 ② 気候変動
 - 96 ③ 重大環境事故 ④ 生物多様性
 - 102 **特集** 「ビジネスと人権」への取り組み
 - 106 ⑤ 従業員の安全・衛生
 - 108 ⑥ 多様な人材 ⑦ 人材の育成と活躍
 - 110 ⑧ ステークホルダーとの対話
 - 113 ⑨ 地域社会との共存共栄
 - 115 ⑩ 先住民の権利
 - 116 ⑪ サプライチェーンにおける人権

- 価値創造を支えるために
 - 118 コーポレートガバナンス
 - 130 社外取締役座談会
新中計～「変革への新たな挑戦」に向けての取締役
会の役割～
 - 132 税務ガバナンス
 - 134 コンプライアンス
 - 136 リスクマネジメント
 - 138 品質保証
 - 140 役員一覧
- データセクション
 - 142 第三者保証報告書
 - 144 用語集
 - 148 11年間の主要財務指標の推移
 - 150 連結財政状態計算書／連結損益計算書／
連結包括利益計算書
 - 152 連結持分変動計算書
 - 154 連結キャッシュフロー計算書
 - 155 会社概要および株式に関する情報
 - 157 投資家FAQ

真正性表明

別冊
ESG
データブック
2022

- 1 非鉄金属資源の有効活用
- 2 気候変動
- 5 重大環境事故・生物多様性
- 12 従業員の安全・衛生
- 16 多様な人材・人材の育成と活躍
- 22 ステークホルダーとの対話
- 25 地域社会との共存共栄
- 27 その他

見直しに関する注意事項
本統合報告書に記載されている業績見直し等の将来に関する記述は、当社が編集時点で入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

統合報告書2022のコンセプト

長期ビジョンの実現に向けた「2030年のありたい姿」の取り組み、新たに策定した「2021年中期経営計画」による社会環境変化への対応・変革への挑戦など、ステークホルダーの関心の高い内容を重点的に説明

「統合報告書2022」は「住友金属鉱山グループのありたい姿」「住友金属鉱山グループの価値創造」「価値創造のための成長戦略」「社会との価値共創のために」「価値創造を支えるために」「データセクション」という6つの章で構成し、ステークホルダーの皆様にとって網羅的でありながらも、より読みやすい内容にするよう心掛けるとともに、当社株式に関する投資判断の視点に配慮した情報を充実させています。

初めて当社の統合報告書をご覧いただく方に、一目で当社の概要をご理解いただけるよう、冒頭にAt a Glanceのページを設けました。

特集では、昨年に続き「DX(デジタル・トランスフォーメーション)」を取り上げ、DXの全社的推進活動を積極的に進める体制を整えた点や、「DX推進部」を新設し実行組織によるDX展開を進める点などを、具体的なDXへの取り組み事例とともに解説しています。

また、長期ビジョン実現のためのマイルストーンである「2030年のありたい姿」の重要課題を当社グループのマテリアリティとして位置付け、この1年間の進捗を、11の重要課題別にKPIも含めて説明しています。

なお、サステナビリティに関わる詳細なデータについては、改めて掲載内容の選別を行い「ESGデータブック2022」として分冊化を継続。本報告書への掲載を絞り込むとともに、これまで開示してきた情報の質と量を維持しつつ、さらに読みやすさを追求しました。

統合思考に基づいた記載とビジネスモデル解説

「価値創造プロセス」では、当社グループの価値創造プロセスの特徴を明確化することを目的に、各プロセスの詳細をより定量化しています。本年は、解説ページにてビジネスモデルの図解も加え、当社グループならではの価値を生み出す仕組みについての理解を深めていただけるよう説明しています。

全編を通して、価値創造、長期ビジョン「世界の非鉄リーダー」たる高い目標と決意を表明し、事業戦略とともに「2030年のありたい姿」への取り組みを中心に、サステナビリティについてのコミットメントも示しています。

編集方針

近年、様々なステークホルダーから、企業のESGの取り組みへの関心や要請は高まっており、また、企業はESGへの取り組みを含む持続可能性について説明責任を果たすべく積極的に情報の開示を行うようになってきました。当社は、社内外の様々なステークホルダーの皆様に、当社グループが目指す「持続的な成長と企業価値の最大化」に向けた取り組みについて、より一層ご理解を深めていただくこと、また、皆様との対話のツールとして役立てていただくことを目的として、2016年より統合報告書を発行しています。

7回目の発行となる「住友金属鉱山 統合報告書2022」においては、分かりやすさとともに網羅性を心掛け、当社グループの価値創造について、サステナビリティと事業とのさらなる融合を図りながら説明するとともに、特に、2022年度が初年度となる「2021年中期経営計画」をご理解いただけるものとなることを目指し、編集しています。

参考としたガイドライン等および保証

本報告書の編集にあたっては、「国際統合報告フレームワーク^{※1}」および「価値協創ガイドライン^{※2}」を参照し、価値創造プロセスを用いて活用する資本、ビジネスモデル、ステークホルダーに提供する価値を分かりやすく解説しています。また、サステナビリティ報告の開示情報については、GRI^{※3}のサステナビリティ・レポート・スタンダードの中核(Core)オプションに準拠しています。パフォーマンスデータ等については第三者保証を受けています。

※1 Value Reporting Foundationが提供している企業の短・中・長期の価値創造ストーリーを伝える国際的な企業報告フレームワーク

※2 経済産業省がとりまとめた、企業と投資家が情報開示や対話を通じて互いの理解を深め、価値協創に向けた行動を促すことを目的としたガイドライン

※3 GRI: Global Reporting Initiative の略。サステナビリティ報告書の国際的なガイドラインの作成・普及を目的とした団体。GRI内容索引については、当社ホームページ(<https://www.smm.co.jp/>)に掲載しています。

対象範囲

住友金属鉱山株式会社
(SMM: Sumitomo Metal Mining Co., Ltd.)
住友金属鉱山グループ 当社および連結子会社
経済性報告 当社、連結子会社、持分法適用会社
環境報告 当社、連結子会社、持分法適用会社(計27社)
社会性報告 当社、連結子会社

発行年月

2022年9月 次回予定2023年9月(前回2021年9月)

対象期間

(一部、対象期間以前、もしくは以降の活動内容も含まれます)
国内: 2021年4月1日～2022年3月31日
海外: 2021年1月1日～2021年12月31日

参考にしたガイドライン

GRI サステナビリティ・レポート・スタンダード
VRF 国際統合報告フレームワーク



環境省環境報告ガイドライン(2018年版)
経済産業省価値協創ガイドライン



お問い合わせ先

住友金属鉱山株式会社 広報IR部
〒105-8716 東京都港区新橋5丁目11番3号
TEL 03-3436-7705 FAX 03-3434-2215